

を受けた者の0.72%に病変を認め、下部消化管の検索を受けた者の0.47%に結節集簇様病変が存在した。病変の発見には注腸X線検査より大腸内視鏡検査が有用であった。

II-12. 種々の代謝障害を繰り返し、死に至った大酒家の一例

藤代典子, 西村元伸, 土田弘基
(国立佐倉)

山田研一 (同・臨床研究部)

浜口欣一 (同・病理)

症例は48歳男性。92年8月大量飲酒後、入院し、アルコール性急性膵炎、横紋筋融解、乳酸アシドーシス、ケトアシドーシスの診断で加療し改善した。94年3/31腹痛を訴え入院。前回と同様の診断で治療を開始したが、4/1死亡。剖検でDIC、肺胞出血、肺うっ血等の所見が認められた。アルコールに起因する種々の臓器障害、代謝異常を呈し、興味ある症例と考えられたので文献的考察を加え、発表したい。

II-13. 千葉市保健所および保健センターにおける高脂血症指導の効果

石川 洋 (千葉市保健所)

千葉市が行っている基本健康診査(成人病検診)では、高脂血症と判定される者の数が最も多く、平成5年度では受診者中の29%(約23,000名)を占めている。千葉市保健所および保健センターでは、このうち主に軽症及び境界域の高脂血症者を対象に、医師による講演会・調理実習・運動指導などの保健指導を行っている。その結果、受診者の総コレステロール値は、生活習慣の改善と共に、平均10%の低下が得られているので報告する。

II-14. Rhabdomyolysis, 急性腎不全, 各種膵酵素の著明な上昇を合併し糖尿病性前昏睡で発症した高齢者 IDDM の1例

福田和司, 奥山恭子, 岩岡秀明
西口 弘, 柳沢孝夫, 松本一暁
(成田赤十字)

今回我々は、横紋筋融解症、急性腎不全、各種膵酵素の著明な上昇を合併し、糖尿病性前昏睡で発症した81歳の高齢者 IDDM を経験した。本症例は血中、尿中CPRの低値、グルカゴンテスト無反応、HLA-DR 9陽性より IDDM と診断した。81歳という高齢の発症

は非常に稀である。また糖尿病性ケトアシドーシスの際に膵酵素が上昇するという報告があるが、本症例にても認められた。臨床症状、形態学的には膵炎は否定的であった。

II-15. 血糖の急激なコントロールにより、神経障害の増悪を来した NIDDM の1例

山田克己, 福田和司, 岩岡秀明
小方信二 (成田赤十字)

コントロール不良の糖尿病患者に遭遇した場合、問題となるものに、血糖是正化に伴う糖尿病性合併症の増悪がある。今回我々は血糖の急激なコントロールにより、網膜症のみならず、神経障害も増悪した NIDDM の1例を経験した。症例は40歳。近医にてネフローゼ症候群から糖尿病を発見された。急激な血糖コントロール後、網膜症と様々な糖尿病性神経障害の増悪を見た。日常臨床において教訓的な1例と考え報告した。

II-16. 耐糖能障害妊婦の予後について

宮本禎浩, 佐々木憲裕, 金井英夫
木村敬二郎, 明星志貴夫
(川鉄千葉)

妊婦耐糖能障害を有する325例の妊婦の56%は分娩平均1カ月の時点においても耐糖能障害が認められた。耐糖能障害常化例は正常化例に比較して初診時のOGTTでの30, 60, 120分での各血糖値およびその総和と治療後HbA1cが有意に高値を示した。耐糖能障害の予後を予想しうる因子のひとつとしてOGTTの各時間での血糖総和、450mg/dlという値が有用であると考えられた。

II-17. 無月経肥満高血圧症を呈し、PCO症候群が疑われた副腎腫瘍の1例

真村瑞子, 三木隆司, 大村昌夫
西川哲男 (横浜労災)

高血圧、肥満、多毛、月経異常を呈した若年女性で左副腎腫瘍に多嚢胞性卵巣症候群を合併した症例を経験した。副腎腫瘍は非機能性と診断されたが、腫瘍摘出後血圧は低下した。摘出副腎には皮質腺腫、過形成、脂肪腫の合併をみとめた。また右卵巣に嚢胞をみとめ、多嚢胞性卵巣症候群I型と診断された。副腎腫瘍と多嚢胞性卵巣症候群の合併は極めて稀である。